

【第3日目12月3日(木)】

3W5 第5会場(神戸ポートピアホテル本館B1F和楽)

9:00-11:30 [J]

生体分子ホモキラリティーのパラダイムシフトー D-アミノ酸研究の新展開

オーガナイザー：藤井 紀子(京都大学)
本間 浩(北里大学)

Introduction

[9:00]

藤井 紀子(京都大学)

3W5-1

[9:05]

水晶体蛋白質中のアスパラギン酸残基のD体化とD-アスパラギン酸残基周辺の立体構造との関係

藤井 智彦¹, 岸本 成史^{1,2}, 藤井 紀子³ (¹帝京大・中央RI教育研究施設, ²帝京大・薬学, ³京大・原子炉)

3W5-2

[9:19]

アルツハイマー脳における翻訳後ラセミソ化N末端アミロイドペプチドの検出とバイオマーカーとしての応用
井之上 浩一(立命館大・薬)

3W5-3

[9:33]

哺乳動物の脳における細胞外D-セリン濃度調節の分子細胞メカニズム：統合失調症の病態における障害の可能性

西川 徹¹, 海野 麻未¹, 山本 直樹¹, 石渡 小百合¹, 上里 彰仁¹, 海野 真一¹, 小林 桃子¹, Darrick T. Balu², Joseph T. Coyle²
(¹医歯大・院医歯・精神行動, ²Harvard Med. School)

3W5-4

[9:47]

アミノ酸代謝のキラルサイエンスと統合失調症病態システム酵素学

福井 清¹, Diem H. Tran¹, 穴戸 裕二², Huong T.T. Trinh¹, Tuan A. Pham¹, 曾我部 浩史¹, 金 秀珪¹, 赤穂 堯永¹, 頼田 和子¹, 加藤 有介¹ (¹徳島大・疾患酵素研・病態システム酵素, ²徳島大・疾患酵素研・教育講習)

3W5-5

[10:01]

D-セリンとセリンラセマーゼの生体機能

森 寿, 井上 蘭(富山大・院医薬)

3W5-6

[10:15]

D-アミノ酸による線虫の寿命制御

齋藤 康昭¹, 宮本 哲也¹, 関根 正恵¹, 片根 真澄¹, 坂本 太郎², 今井 浩孝², 新井 洋由¹, 本間 浩¹ (¹北里大・薬・生体分子解析学, ²北里大・薬・衛生化学, ³東大院・薬・衛生化学)

3W5-7

[10:29]

DL-セリン同時分別定量法の構築と尿中DL-セリン動態

伊藤 智和, 吉村 徹(名大院・生命農)

3W5-8

[10:43]

ディスプロシウムに対する新たな微生物応答：増大する生育速度とD-グルタミン酸含有ポリ-γ-グルタミン酸の合成

芦内 誠^{1,2}, 白米 優一¹, 松村 歩梨², 柴田 由香², 尾池 翔太¹ (¹高知大・院総人自・農, ²高知大・農)

3W5-9

[10:57]

Genome analysis-based approach to elucidate the molecular mechanism of high-level D-amino acids production by lactic acid bacteria

加藤 志郎¹, 老川 典夫^{1,2} (¹関大・先端機構, ²関大・化学生命工)

3W5-10

[11:11]

ブタ腎臓由来D-アミノ酸酸化酵素のR立体選択的アミン酸化酵素への変換と応用

川原 寛弘^{1,2}, 安川 和志^{1,2}, 中野 祥吾^{1,2}, 大野 篤¹, 浅野 泰久^{1,2} (¹富山県大・工, ²ST, ERATO)

Conclusion

[11:25]

本間 浩(北里大学)

3W6 第6会場(神戸ポートピアホテル 本館 B1F 生田)

9:00-11:30 [J]

脂質シグナリングとその破綻がもたらす病態の理解

オーガナイザー：小林 俊秀 (理化学研究所)
深見 希代子 (東京薬科大学)

3W6-1

[9:00]

トリアシルグリセロール輸送におけるリゾホスファチジルコリンアシル転移酵素 3 (LPCAT3) の役割

吉田 橋立 智美¹, 原山 武士¹, 菱川 大介¹, 森本 亮^{1,2}, 浜野 文三江^{2,3}, 徳岡 涼美², 衛藤 樹^{1,2}, 北 芳博^{2,3}, 進藤 英雄^{1,4}, 清水 孝雄^{1,2} (¹国医セ・脂質シ, ²東大・院医・リビドミクス, ³東大・院医・ライフサイエンス, ⁴AMED-CREST)

3W6-2

[9:20]

細胞膜の脂質二重層を構成する各種の脂質が示す非対称分布とその破綻

村手 源英¹, 阿部 充宏¹, 笠原 浩二², 岩淵 和久³, 梅田 真郷⁴, 小林 俊秀^{1,5} (¹理研・脂質生物, ²都臨床研・細胞膜, ³順天堂大・環境医学研・生化学, ⁴京大・院工・合成・生物化学, ⁵フランス国立保健医学機構・ユニット1060)

3W6-3

[9:40]

急速凍結・凍結切断レプリカ電顕法による膜脂質解析

藤本 豊士¹, 辻 琢磨¹, 高島 翔^{1,2} (¹名大・院医・分子細胞学, ²東大・院薬・機能病態学)

3W6-4

[10:05]

リン脂質結合タンパク質を介した細胞膜張力のシグナリング

伊藤 俊樹, 辻田 和也 (神戸大学バイオシグナル研究センター)

3W6-5

[10:25]

ホスホリパーゼCδ1は正常な皮膚バリアの形成に必要である

中村 由和, 金丸 佳織, 深見 希代子 (東葉大・生命科学・ゲノム病態医科学)

3W6-6

[10:45]

心肥大におけるホスホイノシタイド代謝酵素Vps34のタンパク質分解機構の役割

木村 洋貴^{1,2}, 江口 賢史¹, 久場 敬司³, 今井 由美子⁴, 高須賀 俊輔¹, 伊藤 玲悦¹, 中村 亮太郎¹, 中西 広樹², 石川 将己¹, 佐々木 純子¹, 山崎 正和⁵, 佐々木 雄彦^{1,2} (¹秋田大学大学院医学研究科・微生物, ²秋田大学・生体情報研究センター, ³秋田大学大学院医学研究科・分子機能・代謝機能, ⁴秋田大学大学院医学研究科・情報制御・実験治療学, ⁵秋田大学大学院医学研究科・細胞生物)

3W6-7

[11:05]

ホスホリパーゼD2はCD8陽性T細胞の活性化を介して腫瘍の増大を抑制する

金保 安則, Van Bich Ngo Thai, 本宮 網記, 大林 典彦, 船越 祐司 (筑波大・院医)

3W7 第7会場(神戸ポートピアホテル 本館 B1F 布引)

9:00-11:30 [J]

構造分子生物学・生化学の進展

オーガナイザー：箱嶋 敏雄 (奈良先端科学技術大学院大学)
前仲 勝実 (北海道大学)

Introduction

[9:00]

箱嶋 敏雄 (奈良先端科学技術大学院大学)

3W7-1

[9:07]

結構複雑なよ：Hippo経路の自己阻害MOB1のリン酸化による制御機構

箱嶋 敏雄 (奈良先端大・バイオ)

3W7-2

[9:30]

構造生物学を活用した細胞内GTPセンサー同定

千田 俊哉¹, 竹内 恒², 羅 羽華¹, 千田 美紀¹, 壽美田 一貴³, 池田 幸樹³, 佐々木 敦朗³ (¹高エネ機構・物構研, ²産総研・molprof, ³シンシナティエ大・癌研究所)



3W7-3

[9:53]

Slitrkファミリータンパク質とIIa型受容体タンパク質チロシン脱リン酸化酵素がスプライスインサートに依存して相互作用するメカニズム

山形 敦史^{1,2,3}, 佐藤 裕介^{1,2,3}, 伊藤(後藤) 桜子^{1,2,3}, 植村 健⁴, 吉田 知之^{5,6}, 深井 周也^{1,2,3} (¹東大・放射光機構・生命科学, ²東大・分生研, ³JST・CREST, ⁴信大・医, ⁵富大・院医薬(医), ⁶JST・さきがけ)

3W7-4

[10:16]

標的アナログと結合したCRISPR-Cas系Cmr複合体の結晶構造

沼田 倫征 (産総研・バイオメディカル)

3W7-5

[10:39]

核酸認識Toll様受容体によるリガンド認識とシグナル伝達の構造基盤

大戸 梅治, 清水 敏之 (東大院薬)

3W7-6

[11:02]

糖脂質認識C型レクチン受容体Mincleの構造解析と新規アジュバント探索

古川 敦¹, 上敷領 淳², 須知 裕介¹, 池野 里紗¹, 松丸 尊紀¹, 児玉 耕太¹, 尾瀬 農之¹, 山崎 晶³, 前仲 勝実¹ (¹北大・院薬, ²福山大・薬, ³九大・生医研)

Conclusion

[11:25]

前仲 勝実 (北海道大学)

3W8 第3会場(神戸ポートピアホテル 本館 B1F 北野)

9:00-11:30 [J]

オモロイ生き物の分子生物学

オーガナイザー: 三浦 恭子 (北海道大学)

嘉糠 洋陸 (東京慈恵会医科大学)

Introduction

[9:00]

三浦 恭子 (北海道大学)

3W8-1

[9:03]

長寿・がん化耐性動物ハダカデバネズミiPS細胞の腫瘍化耐性機構の解明

宮脇 慎吾^{1,2,3}, 河村 佳見¹, 大岩 祐基¹, 清野 研一郎², 岡野 栄之³, 三浦 恭子¹ (¹北大・遺制研・動物機能医科学, ²北大・遺制研・免疫生物, ³慶應大・医・生理学)

3W8-2

[9:21]

ミズタマショウジョウバエの水玉模様の形成と進化

越川 滋行 (京大・白眉セ／院理)

3W8-3

[9:39]

体温の調節ができる夢の植物を創る? - ザゼンソウの発熱分子機構に関する研究 -

稲葉 靖子 (宮崎大・TT推進)

3W8-4

[9:57]

生命活動を停止してまで「乾燥」という環境変化に適応したクマムシ

荒川 和晴 (慶大・先端生命)

3W8-5

[10:15]

Yをすてた日本のネズミ-SRYをもたない哺乳類の性決定メカニズム

黒岩 麻里 (北海道大学)

3W8-6

[10:33]

シクリッドの唇肥大化に関わる平行進化メカニズム

二階堂 雅人 (東工大・院生命・生体システム)

3W8-7

[10:51]

不死のベニクラゲと短命なカイヤドリヒドラクラゲ

久保田 信 (京大・フィールド科学教育研究センター・瀬戸臨海実験所)

3W8-8 [11:09]

不死身の女王：シロアリの繁殖システムの進化とその制御メカニズム

松浦 健二 (京大・院農・昆虫生態)

Conclusion [11:27]

嘉糠 洋陸 (東京慈恵会医科大学)

3W9 第9会場(神戸ポートピアホテル 本館 B1F 菊水) 9:00-11:30 [J]

POKファミリーが司る組織分化の複雑性 ～転写抑制とクロマチン制御～

オーガナイザー：岡戸 晴生 (東京都医学総合研究所)

宮武 昌一郎 (東京都医学総合研究所)

3W9-1 [9:00]

組織分化の複雑化にともなって発達したPOKファミリー分子群

岡戸 晴生 (都医学研・脳発達神経再生分野・神経細胞分化)

3W9-2 [9:10]

大脳皮質の発生にはRP58による適切な転写抑制を必要とする

平井 志伸, 神崎 誠司, 岡戸 晴生 (東京都医学研・脳発達神経再生)

3W9-3 [9:30]

POZ/BTBファミリータンパク質の一つであるがん関連転写因子NAC1の分子生物学的・生化学的検討

浦野 健 (鳥根大・医・病態生化学)

3W9-4 [9:50]

POZ-ZF転写制御因子LRF/OCZFの破骨細胞の分化と機能における役割

久木田 明子¹, 徐 祥赫^{1,3}, 菖蒲池 健夫¹, 武智 香織², 古賀 貴子², 白木 誠¹, 蒲原 麻菜¹, 久木田 敏夫³, 高柳 広² (¹佐賀大学・医・微生物学, ²東京大学・医・免疫学, ³九州大学・歯・分子口腔解剖学)

3W9-5 [10:10]

T細胞の増殖制御に必須な新規BTB-ZFタンパク質ZNF131 (Zbtb35)

宮武 昌一郎¹, 青木 和久¹, 正井 久雄², 井口 智弘¹ (¹都医学研・ゲノム医科学・免疫遺伝子, ²都医学研・ゲノム医科学・ゲノム動態)

3W9-6 [10:30]

ThPOK転写因子によるCD4ヘルパー T細胞分化制御

谷内 一郎 (理化学研究所)

3W9-7 [10:50]

DNAメチルトランスフェラーゼによるDNAメチル化模様の形成・維持

田嶋 正二, 末武 勲, 木村 博信 (阪大・蛋白研)

3W9-8 [11:10]

ZBTB24の欠損はサテライト配列のDNAメチル化異常と先天性免疫不全症ICF症候群を引き起こす

佐々木 裕之¹, 新田 洋久^{1,2}, 伊藤 雄哉¹, 鶴木 元香¹ (¹九大・生医研・エビゲノム制御, ²阪大・院医・遺伝子治療)

3W10 第10会場(神戸ポートピアホテル 南館 B1F トパース) 9:00-11:30 [J]

血管・代謝異常の動的変化を探索するエビゲノミクス

オーガナイザー：南 敬 (熊本大学)

酒井 寿郎 (東京大学)

Introduction [9:00]

南 敬 (熊本大学)

3W10-1 [9:02]

VEGF 活性化血管内皮細胞における動的なエビゲノム転写制御機構解析

南 敬^{1,2} (¹熊本・生命科学・生命資源セ, ²東大・先端研・血管生物)



3W10-2	[9:25]
腫瘍血管の遺伝子発現異常とエピゲノム	
樋田 京子 (北大・遺制研・血管生物学)	
3W10-3	[9:50]
細胞系譜特異的DNAメチル化により形成されるH3K4/H3K9me3クロマチンドメインは脂肪細胞分化を停止させる	
松村 欣宏 ¹ , 吉田 文乃 ¹ , 仲木 竜 ² , 鹿野 優佳 ¹ , 稲垣 毅 ¹ , 油谷 浩幸 ² , 酒井 寿郎 ¹ (¹ 東大・先端研・代謝医学, ² 東大・先端研・ゲノムサイエンス)	
3W10-4	[10:15]
DNAメチル化に依存する糖脂質代謝制御	
小川 佳宏 ^{1,2} (¹ 東京医歯大・院医歯・分子内分泌代謝学, ² 日本医療研究開発機構・CREST)	
3W10-5	[10:40]
細胞分化におけるオープンクロマチン解析の進展とその課題	
中村 正裕 (京都大学iPS細胞研究所)	
3W10-6	[11:05]
転写因子Nrf1による代謝制御機構	
小林 聡 (同志社大・院生命医・医生命システム)	
3W11 第11会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F エメラルド)	9:00-11:30 [J]
RNA顆粒のバイオロジーとダイナミクス ~細胞運命決定機構と疾患研究の最前線~	
オーガナイザー: 武川 睦寛 (東京大学) 杉浦 麗子 (近畿大学)	
Introduction	[9:00]
武川 睦寛 (東京大学)	
3W11-1	[9:03]
ストレス顆粒形成によるストレス誘導アポトーシスの制御と活性酸素によるその破綻	
武川 睦寛 (東大医科研・分子シグナル制御)	
3W11-2	[9:22]
神経RNA granuleのダイナミクスと高次脳機能・精神神経疾患	
椎名 伸之 ^{1,2} (¹ 自然科学研究機構・岡崎統合バイオ(基生研), ² 総研大・基礎生物学)	
3W11-3	[9:39]
ウイルス感染に応答したストレス顆粒形成と抗ウイルス生体防御	
米山 光俊 (千葉大・真菌セ・感染免疫)	
3W11-4	[9:58]
ウイルスRNAに対する自然免疫応答におけるユビキチンリガーゼMex3cの役割	
河合 太郎 ¹ , 國吉 佳奈子 ² , 竹内 理 ³ , 審良 静男 ² (¹ 奈良先端大・バイオ・分子免疫制御, ² 阪大・IFReC・自然免疫, ³ 京大・ウィ研・感染防御)	
3W11-5	[10:15]
CCR4-NOT脱アデニル化酵素複合体の生理機能と作用機構	
山本 雅 (沖縄科学技術大学院大学細胞シグナルユニット)	
3W11-6	[10:34]
ストレス時のmRNAポリA鎖安定化とストレス顆粒形成のメカニズム	
星野 真一 (名市大・院薬・遺伝情報学)	
3W11-7	[10:53]
植物におけるRNA顆粒ダイナミクス	
濱田 隆宏, 渡邊 雄一郎 (東大・院総合文化・生命環境)	

3W11-8 [11:10]

シグナル伝達拠点(ハブ)としてのRNA顆粒の役割

杉浦 麗子 (近大・院薬・ゲノム創薬)

Conclusion [11:29]

杉浦 麗子 (近畿大学)

3W12 第12会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F ダイヤモンド) 9:00-11:30 [J]

DNA複製開始を制御する高次複合体ダイナミクス：多様性と普遍性

オーガナイザー：片山 勉 (九州大学)

升方 久夫 (大阪大学)

Introduction [9:00]

升方 久夫 (大阪大学)

3W12-1 [9:03]

動物細胞のDNA複製開始点の確立機構の解明に向けて

和賀 祥¹, 山崎 翠¹, 塚澤 真衣¹, 鈴木 香葉¹, 女部田 寛子¹, 寺西 帆奈美¹, 太田黒 恵美¹, 弓井 絵利夏¹, 由良 敬², 保科 祥子¹
(¹日本女子大・理・物質生物, ²お茶の水女子大・院人間文化創成科学)

3W12-2 [9:21]

大腸菌の複製開始複合体とその制御複合体が描き出す多彩な構造動態

片山 勉¹, 加生 和寿¹, 野口 泰徳¹, 崎山 友香里¹, 村谷 周悟¹, 毛谷村 賢司^{1,2}, 川上 広宣¹ (¹九大・院薬・分子生物, ²(現)学習院大・院理・生命科学)

3W12-3 [9:39]

アーキアの複製ヘリカーゼ複合体の構造・機能解析 ～その保存性と多様性について～

石野 園子¹, 尾木野 弘実¹, 永田 麻梨子¹, 小林 康平¹, 大山 拓次², 山上 健¹, Jan R. Simmons³, 金井 保³, 跡見 晴幸³, 河原林 裕¹, 石野 良純¹ (¹九大院・農, ²山梨大・生命環境, ³京大院・工)

3W12-4 [9:57]

出芽酵母の複製開始複合体の形成機構

矢倉 勝¹, 牧野 仁志穂^{1,3}, 伊藤 啓^{2,3}, 遠藤 静子¹, 村松 佐知子¹, 日詰 光治^{1,3}, 田中 尚美^{1,3}, 田中 誠司^{1,3}, 荒木 弘之^{1,3} (遺伝研・微生物遺伝, ²遺伝研・構造遺伝, ³総研大・遺伝)

3W12-5 [10:15]

ヒト細胞におけるpre-RC形成とfiringの時空間的制御のゲノムワイド解析

杉本 のぞみ¹, 會澤 誠大¹, 吉田 和真¹, 前原 一満², 大川 恭行², 藤田 雅俊¹ (¹九大・院薬・医薬細胞生化学, ²九大・院医・先端医療医学)

3W12-6 [10:33]

テロメア結合タンパク質によるDNA複製の時空間的制御機構

小川 志帆¹, 中村 優太¹, 高橋 達郎¹, 中川 拓郎¹, 小川 英知², 浅川 東彦², 平岡 泰², 升方 久夫¹ (¹阪大・院理・生物科学, ²阪大・院生命科学)

3W12-7 [10:51]

哺乳類RIF1タンパクによるDNA複製調節の分子機構

平賀 信一郎, Anne D. Donaldson (アバディーン大・医科学研)

3W12-8 [11:09]

動物細胞のDNA複製、発生・分化におけるCdc7キナーゼとRif1タンパクの機能

山崎 聡志¹, 小野 富男², 松嶋 夢叶¹, 篠田 陽³, 森山 賢治¹, 吉沢 直子¹, 今西 美智子², 古市 貞一³, 正井 久雄¹ (¹都医学研, ²ゲノム医科学, ³ゲノム動態, ²都医学研, 基盤技術センター, ³東京理科大学理工学応用生物科学)

Conclusion [11:27]

片山 勉 (九州大学)



3W13 第13会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F ルビー)

9:00-11:30 [J]

栄養・メタボライトと遺伝子発現調節～ニュートリゲノミクスの最前線

オーガナイザー：矢作 直也(筑波大学)

松本 道宏(国立国際医療研究センター研究所)

3W13-1

[9:00]

トA複合体1のアミノ酸栄養感知メカニズム

鎌田 芳彰^{1,2} (¹基礎生物学研究所, ²総研大)

3W13-2

[9:17]

S-アデノシルメチオニン代謝による組織維持機構

三浦 正幸(東大・院薬・遺伝学)

3W13-3

[9:34]

細胞外環境への細胞内代謝の適応におけるリジン脱メチル化酵素LSD1の役割

坂元 顕久, 日野 信次朗, 長岡 克弥, 阿南 浩太郎, 高瀬 隆太, 中尾 光善(熊大本・発生研・細胞医学)

3W13-4

[9:50]

Metabolic regulation of Adipocyte differentiation by isocitrate dehydrogenase and Jmjc histone demethylase

酒井 寿郎¹, Eko F. Ariyanto¹, 曾我 朋義², 稲垣 毅¹, 松村 欣宏¹ (¹東京大学 先端研 代謝医学, ²慶応大学)

3W13-5

[10:07]

腸内細菌由来の酪酸は宿主の粘膜免疫システムを調節する

長谷 耕二¹, 磯部 順哉¹, 尾畑 佑樹^{1,2}, 高橋 大輔¹ (¹慶應・薬学・生化学, ²東大・医科研・炎症免疫)

3W13-6

[10:24]

GCN5-CITED2-PKAモジュールを介した肝糖新生制御メカニズム

松本 道宏, 酒井 真志人(国立国際医療研究センター研究所・糖尿病研究センター・分子代謝制御研究部)

3W13-7

[10:41]

摂食・絶食サイクルの転写調節機構

矢作 直也, 武内 謙憲, 西 真貴子, 志鎌 明人, 戸谷 直樹, 沢田 義一, 村山 友樹, 和田 恒弘, 李 恩旭, 朴 賢英, 會田 雄一, 大屋 友華里, 古賀 俊介, 宝田 亜矢子, 升田 紫, 久保田 みどり, 泉田 欣彦(筑波大学医学医療系ニュートリゲノミクスリサーチグループ)

3W13-8

[10:57]

消費するエネルギー貯蔵分子の選択を調節する筋-肝-脂肪シグナル軸

清水 宣明, 田中 廣壽(東大・医科研・附属病院)

3W13-9

[11:14]

生活習慣病の病態基盤としての栄養

吉田 陽子^{1,2}, 清水 逸平^{1,2}, 南野 徹¹ (¹新大・医歯・循環器内科, ²新大・医歯・先進老化制御学)

3W16 第16会場(神戸国際会議場 3F レセプションホール)

9:00-11:30 [J]

放射線生物影響の課題に挑む分子生物学研究の力

オーガナイザー：小林 純也(京都大学)

松本 義久(東京工業大学)

3W16-1

[9:00]

低線量率放射線照射による細胞内ROS上昇とDNA損傷応答との関係

小林 純也¹, 斎藤 裕一郎¹, 周 慧¹, 柳原 啓見², 松浦 伸也², 小松 賢志¹ (¹京大・放生研・ゲノム動態, ²広大・原医研・放射線ゲノム疾患)

3W16-2

[9:20]

DNA損傷応答と細胞老化

高橋 曉子¹, 今井 良紀¹, 堀 智史¹, 原 英二^{1,2} (¹がん研究会・がん研究所・がん生物, ²阪大・微研・遺伝子生物学)

3W16-3 **[9:40]**

ストレス造血における造血幹細胞の制御機構

田久保 圭啓 (国立国際医療研究センター研究所生体恒常性プロジェクト)

3W16-4 **[10:00]**

低線量率 γ 線連続照射下における非同相末端結合の重要性

富田 雅典¹, 小林 純也², 大塚 健介¹, 松本 義久³, 内海 博司⁴ (¹電中研・原技研・放射線安全, ²京大・放生研・ゲノム動態, ³東工大・原子炉研, ⁴体質研)

3W16-5 **[10:20]**

マウスミトコンドリアDNAの突然変異がコントロールする表現型 ~核外ゲノムの変異によるインパクト~

石川 香¹, 橋爪 脩¹, 清水 章文², 三藤 崇行¹, 中田 和人¹, 林 純一¹ (¹筑波大・生命環境系, ²筑波大・院・生命環境)

3W16-6 **[10:40]**

PCNAのユビキチン化を制御して過酸化水素誘発突然変異を抑制するヒト細胞のメカニズム

益谷 央豪¹, 柏葉 脩一郎¹, 金尾 梨絵¹, 松尾(楠本) 理加¹, 花岡 文雄², 増田 雄司^{1,3} (¹名大・環医研・ゲノム動態制御, ²学習院大・院理・ライフサイエンス, ³名大・院医・トキシコゲノミクス)

3W16-7 **[11:00]**

DNA依存性プロテインキナーゼ(DNA-PK)の機能と放射線感受性の予測・制御

松本 義久 (東工大・原子炉研)

3W16-8 **[11:20]**

総括

花岡 文雄 (学習院大学)

3W19 第19会場(神戸国際会議場 5F 501会議室) **9:00-11:30 [J]**

高次生命機能を支えるメンブレントラフィック

オーガナイザー: 福田 光則 (東北大学)

佐藤 健 (群馬大学)

Introduction **[9:00]**

福田 光則 (東北大学)

3W19-1 **[9:03]**

神経突起伸長におけるRabシグナリングカスケードの役割

福田 光則 (東北大院・生命・膜輸送機構解析)

3W19-2 **[9:27]**

エンドソーム物質輸送における細胞質側脂質層局在性リン脂質の役割

田口 友彦 (東大・院薬・疾患細胞生物)

3W19-3 **[9:51]**

生理的および肝線維化時におけるコラーゲン分泌機構の解析

齋藤 康太, 前田 深春, 篠原 健太郎, 堅田 利明 (東大・院薬・生理化学)

3W19-4 **[10:15]**

局所バロミトイル化サイクルによるシナプス後部ナノドメインの形成機構

深田 正紀^{1,2}, 関谷 敦志^{1,2}, 村上 達郎^{1,2}, 横井 紀彦^{1,2}, 小林 憲太^{2,3}, 深田 優子^{1,2} (¹生理研・生体膜, ²総研大・生理科学, ³生理研・ウイルス)

3W19-5 **[10:39]**

ショウジョウバエを用いた筋細胞再構成機構の解析

藤田 尚信^{1,2}, Amy Kiger¹ (¹UCSD, 細胞・発生, ²東北大・院生命・生命機能)

3W19-6 **[11:03]**

受精前後における細胞内膜系リモデリングの時空間的制御機構

坂口 愛沙¹, 佐藤 美由紀², 佐藤 克哉², 安藤 恵子³, 中井 淳一³, 前島 郁子¹, 原 太一¹, 依光 朋宏⁴, 佐藤 健¹, 佐藤 健¹ (¹群馬大・生調研・細胞構造, ²群馬大・生調研・生体膜機能, ³埼玉大・理工学研究科・脳末梢科学研究センター, ⁴東京大・総合文化・生命環境)

Conclusion

[11:27]

佐藤 健 (群馬大学)

3W20 第20会場(神戸国際会議場 5F 502会議室)

9:00-11:30 [J]

Hippoシグナル伝達経路が制御する多様な細胞応答

オーガナイザー：仁科 博史 (東京医科歯科大学)

畑 裕 (東京医科歯科大学)

3W20-1

[9:00]

YAP is essential for tissue tension regulating vertebrate 3D body shape

古谷 清木 誠^{1,6}, Sean Porazinski¹, Huijia Wang¹, 浅岡 洋一², Martin Behrndt³, 宮本 達雄⁴, 森田 仁³, 島 星治², 佐々木 貴史⁵, S. F. Gabriel Krens³, 長田 優美⁶, 浅香 聡², 桃井 章裕^{6,10}, Sarah Linton¹, Joel Miesfeld⁷, Brian Link⁷, 千賀 威⁸, Atahualpa Castillo-Morales¹, Araxi Urrutia¹, 清水 信義⁵, 長瀬 秀明⁹, 松浦 伸也⁴, Bagby Stefan¹, 近藤 寿人^{6,10}, 仁科 博史², Carl-Philipp Heisenberg^{3,10,11} (¹Bath大学 再生医学センター, ²東京医科歯科大 難治疾患研究所, ³オーストリア・科学技術研究所, ⁴広島大 原爆放射線医学科学研究所, ⁵分子生物 慶應大 医学部, ⁶科技振興機構 近藤誘導分化プロ ERATO/SORST, ⁷細胞生物 神経生物解剖 ウィスコンシン医科大, ⁸がん生物 名古屋大 医学部, ⁹ケネディ研 リウマチ学 ナフィールド オックスフォード大, ¹⁰大阪大 院 生命機能, ¹¹ライフサイエンス 京都産業大)

3W20-2

[9:21]

Yap1は必ず応力応答性に核内移行し血管新生を制御する

中嶋 洋行, 望月 直樹 (国循セ・研・細胞生物)

3W20-3

[9:42]

マウス胚由来線維芽細胞株NIH3T3における転写因子TeadとMycによる細胞競合

佐々木 洋 (阪大・院生命機能)

3W20-4

[10:03]

腸上皮の幹細胞依存的な更新におけるHippo経路の役割

今城 正道¹, 西田 栄介² (¹京大・院・生命科学・生体制御学, ²京大・院・生命科学・シグナル伝達学)

3W20-5

[10:24]

マウス肝臓におけるMOB1の機能解析

西尾 美希¹, 後藤 裕樹¹, 大坪 孝平¹, 藤 庸子¹, 宮地 洋祐¹, 日笠 弘基¹, 杉町 圭史², 三森 功士², 鈴木 聡¹ (¹九大・生医研・ゲノム腫瘍学, ²九大・別府病院・外科)

3W20-6

[10:45]

悪性中皮腫におけるHippoシグナル伝達系異常

関戸 好孝 (愛知がんセ・研・分腫)

3W20-7

[11:06]

がん治療、再生医療の治療標的としての転写共役因子YAP1、TAZの有用性について

畑 裕 (東京医科歯科大・院医歯学・病態代謝解析学)

Conclusion

[11:27]

仁科 博史 (東京医科歯科大学)

3W22 第22会場(神戸国際展示場 2F 2A会議室)

9:00-11:30 [J]

アミノ酸研究の新展開：細胞シグナルとしての動的制御機構

オーガナイザー：林 良敬 (名古屋大学)

桑 昭苑 (東京工業大学)

Introduction

[9:00]

林 良敬 (名古屋大学)

3W22-1

[9:02]

HEK293T細胞のアミノ酸シグナルによるmTORC1活性化の特性についての検討

大垣 隆一, 永森 收志, ウィリヤサムクン バッタマ, 萩原 浩平, 金井 好克 (阪大・院医・薬理・生体システム薬理学)



3W22-2	[9:30]
多能性幹細胞の多能性維持および分化におけるアミノ酸およびその誘導体の役割 糸 昭苑 (東京工業大学 大学院生命理工学研究科)	
3W22-3	[9:58]
インスリン分泌におけるグルタミン酸シグナルの役割 高橋 晴美, グブルジャン ゲニ, 山口 拓郎, 横井 伯英, 清野 進 (神戸大・院医・分子代謝医学)	
3W22-4	[10:26]
APC遺伝子変異による大腸癌の代謝プロファイル変動と細胞増殖に対する影響 吉田 優 ^{1,2} , 西海 信 ² , 吉江 智郎 ² , 東 健 ² (¹ 神戸大・院医・病因病態解析学, ² 神戸大・院医・消化器内科学)	
3W22-5	[10:54]
グルカゴンによるアミノ酸代謝とアルファ細胞増殖の制御 林 良敬 (名大・環医研)	
総合討論	[11:22]
Conclusion	[11:28]
糸 昭苑 (東京工業大学 大学院生命理工学研究科)	

3W24	第24会場 (神戸国際展示場 3F 3A会議室)	9:00-11:30 [J]
------	--------------------------	----------------

データベース生物学: 公共データの再利用による新しい研究スタイルのすすめ	
オーガナイザー: 広田 喜一 (関西医科大学) 坊農 秀雅 (ライフサイエンス統合データベースセンター)	

3W24-1	[9:00]
データベース生物学をめぐる個人的な体験 広田 喜一 (関西医科大学・医学部・麻酔科学)	
3W24-2	[9:30]
公共データベースを利用した昆虫ストレス応答分子の探索 天竺桂 弘子 (農工大・院農・生物生産)	
3W24-3	[10:00]
文献注釈情報MeSHを利用した網羅的な遺伝子の機能アノテーションパッケージ 露崎 弘毅 ¹ , 師田 郷太 ^{2,3} , 石井 学 ¹ , 仲里 猛留 ⁴ , 宮崎 智 ⁵ , 二階堂 愛 ¹ (¹ RIKEN ACCC BiT, ² ネブラスカ大学リンカーン校・動物科学科, ³ ウィスコンシン大学マディソン校・動物科学科, ⁴ ROIS, DBCLS, ⁵ 理科大・院薬・薬科学)	
3W24-4	[10:30]
大規模塩基配列決定時代のデータベース運営 中村 保一 (遺伝研)	

3W24-5	[11:00]
セマンティクスが高める生命科学データベースの利用性 片山 俊明 (ライフサイエンス統合データベースセンター)	

3W26	第26会場 (神戸商工会議所 3F 神商ホールA)	9:00-11:30 [J]
------	---------------------------	----------------

病原微生物の増殖制御として働く宿主細胞オルガネラ	
オーガナイザー: 花田 賢太郎 (国立感染症研究所) 鈴木 哲朗 (浜松医科大学)	

Introduction	[9:00]
花田 賢太郎 (国立感染症研究所)	
3W26-1	[9:05]
クラミジア・トラコマティスによってハイジャックされる宿主セラミド輸送機構 熊谷 圭悟 ¹ , 山地 俊之 ¹ , 山本 章嗣 ² , 花田 賢太郎 ¹ (¹ 国立感染研・細胞化学, ² 長浜バイオ大・アニマルサイエンス)	



3W26-2

[9:25]

Obligatory Intracellular Bacterial Nutrition Through Rab5-mediated AutophagyYasuko Rikihisa¹, Mingqun Lin¹, Hongyan Liu¹, Qingming Xiong¹, Hua Niu¹, Zhihui Cheng¹, 山本 章嗣² (¹Dept. of Vet. Biosci., The Ohio State Univ., ²Faculty Biosci., Nagahama Inst. Biosci. & Tech.)

3W26-3

[9:50]

インターフェロン γ 誘導性GTPaseによるトキソプラズマ寄生胞の破壊制御機構

山本 雅裕 (阪大・微研・IFReC・免疫寄生虫学)

3W26-4

[10:15]

ボルナウイルス：RNAウイルスによる細胞核ヒッチハイキング

朝長 啓造 (京大・ウイルス研)

3W26-5

[10:40]

ダイサー遺伝子の発現誘導で活性化されたRNAサイレンシングによる別種ウイルス間の干渉効果鈴木 信弘¹, 千葉 壮太郎² (¹岡山大学資源植物科学研究所, ²名古屋大学アジアカサテライトキャンパス)

3W26-6

[11:05]

C型肝炎ウイルス複製に関わる宿主オルガネラとのコミュニケーション

鈴木 哲朗 (浜松医大・医・感染症学)

3W27 第27会場(神戸商工会議所3F 神商ホールB)**9:00-11:30 [J]****新農薬を志向したケミカルバイオロジー**

オーガナイザー：長田 裕之 (理化学研究所)

河岸 洋和 (静岡大学)

Introduction

[9:00]

長田 裕之 (理化学研究所)

3W27-1

[9:05]

糸状菌二次代謝を標的とした農薬探索

本山 高幸, 尹 忠録, 長田 裕之 (理研CSRS・ケミカルバイオロジー)

3W27-2

[9:33]

アフラトキシン、トリコセシン生産阻害物質の作用機構

作田 庄平, 古川 智宏, 飯村 九林, 山本 利義 (東大・院農・応生化)

3W27-3

[10:01]

フェアリーリングの化学的解明とそのフェアリーの農業への応用への可能性

河岸 洋和 (静大・グリーン研)

3W27-4

[10:29]

新規植物カルス誘導化合物FPXと新規植物成長促進化合物PPGの単離と機能解析中野 雄司^{1,4}, 田中 翔太^{1,2}, 久城 哲夫², 篠崎 一雄¹, 長田 裕之¹, 浅見 忠男^{3,4} (¹理研・環境資源科学研究センター, ²明治大学・農・農芸化学, ³東大・農学生命・応用生命化学, ⁴JST-CREST)

3W27-5

[10:57]

昆虫制御のケミカルバイオロジー：昆虫の神経伝達を選択的に制御する糸状菌代謝物の標的解明とその意味

松田 一彦 (近畿大学農学部応用生命化学科)

Conclusion

[11:25]

河岸 洋和 (静岡大学)

3W2-p 第2会場(神戸ポートピアホテル 本館 B1F 借室1)

14:00-16:30 [J]

多様なDNA損傷応答の統合制御機構 2015 ~ゲノム不安定性の病態解明研究~

オーガナイザー：柴田 淳史 (群馬大学)
荻 朋男 (名古屋大学)

Introduction

[14:00]

柴田 淳史 (群馬大学)

3W2-p-1

[14:03]

BRCA1によるDSB end resectionの時空間的制御

磯野 真由¹, 新美 敦子², 尾池 貴洋³, 萩原 慶彦^{3,4}, 佐藤 浩央³, 関根 亮太¹, 吉田 由香里¹, Elena Petricci⁵, 中田 慎一郎⁶, 中野 隆史^{1,2,3}, 柴田 淳史⁴ (群馬大・重粒子線セ,²群馬大・未来先端,³群馬大・院医・病態腫瘍制御,⁴群馬大・先端ユニット,⁵シエナ大,⁶大阪大・院医・細胞応答制御)

3W2-p-2

[14:21]

ヒトRAD52のアセチル化を介した相同組換えにおけるアセチル化および脱アセチル化酵素の新規機能の解明

安田 武嗣¹, 香川 亘², 荻 朋男³, 齋藤 健吾⁴, 加藤 宝光⁵, 鈴木 健祐⁶, 堂前 直⁶, 滝澤 和也¹, 早乙女(中邑) 愛¹, 中沢 由華⁷, Matthew D. Genet⁸, 宇井 彩子⁸, 花岡 文雄⁹, 菅澤 薫¹⁰, 岡安 隆一¹¹, Penny A. Jeggo¹², 胡桃坂 仁志¹, 田嶋 克史¹ (放医研・緊急被ばく医療研究センター,²明星大・理工,³名古屋大・環境医学研,⁴早稲田大・院・先進理工/理工研,⁵Dep. Environmental and Radiological Health Sci., Colorado State Univ.,⁶理研・環境資源科学研究センター,⁷長崎大・がんゲノム不安定性研究拠点,⁸聖マリアンナ医大・応用分子腫瘍,⁹学習院大・理,¹⁰神戸大・バイオシグナル研究センター,¹¹放医研・国際オープンラボラトリー,¹²Genome Damage and Stability Ctr., Univ. of Sussex)

3W2-p-3

[14:39]

相同組換え修復過程におけるユビキチン化の関与

中田 慎一郎 (大阪大学大学院医学系研究科)

3W2-p-4

[14:57]

相同組換えにおけるRPA2のユビキチン化を介した分解

稲野 将二郎^{1,4}, 佐藤 浩一², 石合 正道¹, 勝木 陽子¹, 中田 慎一郎³, 胡桃坂 仁志², 高田 稔¹ (京都大学・放射線生物研究センター・晩発効果研究部門,²早稲田大学・理工学術院先進理工学部・電気情報生命工学科,³大阪大学・医学系研究科・細胞応答制御学,⁴京都大学・大学院医学研究科・血液腫瘍内科)

3W2-p-5

[15:15]

DNA二重鎖切断修復に関与する脱ユビキチン化酵素を介したゲノム安定性維持機構

Paul Wijnhoven¹, Rebecca Konietzny², Andrew N. Blackford¹, Jonathan Travers¹, Benedikt M. Kessler², 西 良太郎^{1,3}, Stephen P. Jackson^{1,4} (The Wellcome Trust/Cancer Res. UK, Gurdon Inst., Univ. of Cambridge,²Target Discovery Inst., Nuffield Dept. of Med., Univ. of Oxford,³立命館大・生命・生命医科学,⁴The Wellcome Trust Sanger Inst.)

3W2-p-6

[15:33]

Rad9 C末端によるチェックポイントクランプRad9-Hus1-Rad1の機能制御機構

大橋 英治¹, 武石 幸容^{1,2}, 釣本 敏樹¹ (九大・理・生物,²福歯大・先端科学研究センター)

3W2-p-7

[15:51]

相同組換えを介したDNA複製の再スタート機構の解析

花田 克浩, 川島 友莉 (大分大・医・臨床医工)

3W2-p-8

[16:09]

ゲノム不安定性を示す遺伝性疾患の症例収集と病態解析研究

荻 朋男^{1,2,3}, 中沢 由華^{1,2,3}, 唐田 清伸^{1,2,3}, 郭 朝万^{1,2}, 岡 泰由^{1,2}, 貫 楠^{1,2}, 嶋田 蘭子^{2,3}, 宮崎 仁美^{2,3}, 千住 千佳子^{2,3} (1)名大・環研・発生遺伝,²長大・がん・ゲノム不安定性研究拠点,³長大・原研修復)

Conclusion

[16:27]

荻 朋男 (名古屋大学)



3W3-p 第3会場(神戸ポートピアホテル 本館 B1F 借室2)

14:00-16:30 [J]

生体反応システムの頑強性と進化可能性

オーガナイザー：堀越 正美(東京大学)
一柳 健司(九州大学)

Introduction

[14:00]

一柳 健司(九州大学)

3W3-p-1

[14:05]

頑強性・脆弱性：要素からシステムまでの横断的理解

堀越 正美(東大・分生研・発生分化構造)

3W3-p-2

[14:25]

細胞内で不安定な細胞質流動が安定的に生じるメカニズム

木村 健二^{1,2}, 木村 暁^{1,2} (¹遺伝研・細胞建築, ²総研大・遺伝学専攻)

3W3-p-3

[14:45]

適応機構に成り立つ基本法則

小林 徹也, 杉山 友規(東大・生産研)

3W3-p-4

[15:05]

全成分タンパク質合成反応モデルの構築と反応ダイナミクス解析

松浦 友亮¹, 谷村 直樹³, 細田 一史⁴, 四方 哲也⁵, 清水 義宏² (¹阪大・院工・生命先端・生物工学, ²理研・Qbic, ³ミズホ情報総研, ⁴阪大・未来機構, ⁵阪大・院情報・バイオ情報)

3W3-p-5

[15:25]

タンパク質の過剰発現が及ぼす影響とそれに対する細胞のストラテジー

守屋 央朗¹, 石川 浩史², 江口 優一², 金高 令子², 蒔苗 浩司¹ (¹岡大・異分野コア, ²岡大・院自然)

3W3-p-6

[15:45]

発生システムが動物ボディプラン進化を制約している可能性

入江 直樹¹, Song Guo², Haiyang Hu², 島井 光太郎³, Fang Li⁵, Guojie Zhang^{5,6}, 倉谷 滋⁴, Shiping Liu⁵, Jr-Kai Yu⁷, 笹川 洋平⁸, 日下部 岳広³, Philipp Khaitovich² (¹東大・院理・生物科学, ²CAS-MPG Partner Institute, ³甲南大・院自然・生物, ⁴理研, ⁵BGI, ⁶Dept. of Biol. Univ. of Copenhagen, ⁷Academia Sinica, Taiwan, Instit. of Cellular and Organismic Biology, ⁸理研・情報基盤センター)

3W3-p-7

[16:05]

HSP90が遺伝学的ロバストネスと進化可能性に与える影響：大域的遺伝的修飾効果の検証

高橋 一男(岡大・環境生命)

Conclusion

[16:25]

堀越 正美(東京大学)

3W4-p 第4会場(神戸ポートピアホテル 本館 B1F 借室3)

14:00-16:30 [J]

生活習慣病の基盤にある代謝・免疫・老化クロストーク

オーガナイザー：尾池 雄一(熊本大学)
真鍋 一郎(東京大学)

3W4-p-1

[14:00]

肥満によって加速される免疫老化の分子機序の解明

佐野 元昭, 白川 公亮(慶應義塾大学医学部循環器内科)

3W4-p-2

[14:25]

生活習慣病・がんの共通分子機構とSASPとしてのアンジオポエチン様因子2シグナル

門松 毅, 尾池 雄一(熊大・生命科学研究所・分子遺伝)

3W4-p-3

[14:50]

SIRT7の多様な代謝機能

吉澤 達也, 山縣 和也(熊大・院生命科学研究・病態生化学)

3W4-p-4 [15:15]

肥満における2型自然リンパ球の役割

茂呂 和世 (理研・統合生命・免疫細胞)

3W4-p-5 [15:40]

生活習慣病の基盤となる細胞代謝-機能連携のメカニズム

大石 由美子 (東京医科歯科大・難研・細胞分子医学)

3W4-p-6 [16:05]

tRNA修飾異常と代謝疾患

富澤 一仁 (熊本大・院生命科学・分子生理)

3W5-p 第5会場(神戸ポートピアホテル 本館B1F 和楽) [14:00-16:30 [J]]

神経変性疾患の原因を遺伝子レベルからアプローチする

オーガナイザー：石田 直理雄 (産業技術総合研究所)

3W5-p-1 [14:00]

ショウジョウバエ分子遺伝学を利用した遺伝性パーキンソン病へのアプローチ

今居 謙 (順大・院医・パーキンソン病)

3W5-p-2 [14:30]

神経型ゴーシェ病モデルメダカは軸索にアルファシヌクレイン蓄積を示す

上村 紀仁 (京大・院医・臨床神経)

3W5-p-3 [15:00]

新しいゴーシェ病モデルショウジョウバエ

石田 直理雄^{1,2} (¹産総研バイオメディカル時間生物, ²筑波大生命環境)

3W5-p-4 [15:30]

シャペロン療法

難波 栄二 (鳥大 生命機能センター)

3W5-p-5 [16:00]

パーキンソン病の病態：遺伝性パーキンソン病の原因遺伝子からのアプローチ

服部 信孝 (順天堂大・医・神経学)

3W6-p 第6会場(神戸ポートピアホテル 本館B1F 生田) [14:00-16:30 [E]]

Dynamics in cell-cell adhesion and cytoskeleton complex to create biological systems

Organizers : Junichi Ikenouchi (Kyushu University)

Sachiko Tsukita (Osaka University)

Introduction [14:00]

Sachiko Tsukita (Osaka University)

3W6-p-1 [14:02]

Regulation of the epithelial morphogenesis by the tight junction-apical microtubule complex.

Tomoki Yano, Hatsuho Kano, Elisa Herawati, Kazuhiro Tateishi, Atsushi Tamura, Sachiko Tsukita (Lab. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Front. Biosci. / Grad. Sch. of Med., Univ. of Osaka)

3W6-p-2 [14:20]

Planar cell polarity pathway coordinates local cortical actomyosin during collective cell movement

Asako Shindo¹, Mitchell Butler², John Wallingford², Makoto Kinoshita¹ (¹Dept. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Nagoya Univ., ²Dept. Mol. Biosci., Univ. of Texas at Austin)

3W6-p-3 [14:38]

Self-organization of actomyosin cytoskeleton

Alexander D. Bershadsky^{1,2} (¹Department of Molecular Cell Biology, Weizmann Institute of Science,

²Mechanobiology Institute, National University of Singapore)

3W6-p-4 [15:01]

Qualitative changes of plasma membrane during epithelium-mesenchyme transition

Junichi Ikenouchi^{1,2}, Ryo Shiomi¹, Kenta Shigetomi¹ (¹Dept. of Biol., Fac. of Sci., Kyushu Univ., ²JST PRESTO)

3W6-p-5 [15:19]

Mechanobiology of the Cadherin-Catenin Complex

W. James Nelson (Department of Biology, Stanford University)

3W6-p-6 [15:42]

CAMSAP3 determines the apical-to-basal orientation of microtubules in polarized epithelial cells

Mika Toya¹, Wenxiang Meng², Masatoshi Takeichi¹ (¹RIKEN CDB, ²CAS)

3W6-p-7 [16:00]

How does a one-dimensional (1-D) sequence of DNA become a 3-D tissue?

Mina J. Bissell^{1,2}, Saori Furuta^{1,2}, Claire Robertson^{1,2} (¹Life sciences Division, Lawrence Berkeley National Laboratory, ²University Calif, Berkeley)

Conclusion [16:23]

Junichi Ikenouchi (Kyushu University)

3W7-p 第7会場(神戸ポートピアホテル本館B1F 布引) 14:00-16:30 [J/E]

統合化に向けて加速する脂質生物学の現状と展望

オーガナイザー：平林 義雄 (理化学研究所)
伊東 信 (九州大学)

3W7-p-1 [14:00]

新しい脂質生物学：脂質分子多様性の意義を問う

平林 義雄 (理研・脳センター)

3W7-p-2 [14:15]

Promiscuous Substrate Specificity by SPT is Essential to Maintain Energy Homeostasis

Peter Greimel (RIKEN)

3W7-p-3 [14:35]

細胞膜リン脂質スクランブルの分子機構

鈴木 淳, 長田 重一 (大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 免疫・生化学)

3W7-p-4 [15:00]

皮膚バリアを形成するアシルセラミドの合成経路解明

大野 祐介, 木原 章雄 (北大・院薬・生化学)

3W7-p-5 [15:25]

プロスタグランジンE受容体のX線結晶構造解析を目指して

小林 拓也^{1,2,3} (¹京大・院医, ²創薬等PF, ³CREST)

3W7-p-6 [15:50]

1細胞質量分析法によるダイレクトリピドミクス

升島 努 (理化学研究所)

3W7-p-7 [16:10]

真核単細胞生物の糖脂質/スフィンゴ脂質精密構造の生物学的意義

伊東 信^{1,2} (¹九大院・農・生命機能, ²九大院・農・i-BAC)

3W8-p 第8会場(神戸ポートピアホテル 本館 B1F 北野)

14:00-16:30 [J]

最近の技術から見てきた細胞膜受容体の新しい側面

オーガナイザー：山内 淳司(国立成育医療研究センター研究所)
加藤 裕教(京都大学)

3W8-p-1

[14:00]

初期発生におけるプロスタグランジン受容体の新規機能—モデル生物としてゼブラフィッシュを用いた解析から—

土屋 創健¹, 岩崎 亮¹, 告 恭史郎¹, 杉本 幸彦^{1,2} (¹熊大・薬・生化学, ²AMED)

3W8-p-2

[14:20]

BRAG2-Arf6経路による新たなAMPA受容体シナプス発現調節機構

阪上 洋行(北里大学・医学部・解剖学)

3W8-p-3

[14:40]

Tyro3受容体とFynキナーゼは、ミエリン形成を司る新しいシグナル複合体を形成する

宮本 幸¹, 山内 淳司^{1,2} (¹国立成育医療研究センター研究所薬剤治療研究部, ²東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)

3W8-p-4

[15:00]

エリン受容体EphA2のリガンド非依存的シグナルとリガンドによるOFF作用

加藤 裕教, 根岸 学(京大・院生命)

3W8-p-5

[15:20]

上皮バリア機能維持における12-HHT受容体BLT2の役割

佐伯 和子¹, 石井 由美子², 奥野 利明¹, 横溝 岳彦¹ (¹順天堂大・医・生化学第一, ²九大・医・呼吸器内科学)

3W8-p-6

[15:40]

膜骨格蛋白複合体がもたらす組織構築

寺田 信生¹, 齊藤 百合花², 上條 明生¹, 大野 伸彦² (¹信州大・院医・保健・医療生命科学, ²山梨大・院医工・解剖分子組織学)

3W8-p-7

[16:00]

ゼブラフィッシュ初期発生過程におけるS1P受容体を介したHippoシグナル調節機構

福井 一¹, 福原 茂朋¹, 望月 直樹^{1,2} (¹国研セ研・細胞生物, ²AMED-CREST)

総合討論

[16:20]

3W9-p 第9会場(神戸ポートピアホテル 本館 B1F 菊水)

14:00-16:30 [J]

分子機序に基づいた難治性呼吸器疾患治療の新展開

オーガナイザー：首藤 剛(熊本大学)
沖米田 司(関西学院大学)

Introduction

[14:00]

首藤 剛(熊本大学)

3W9-p-1

[14:02]

慢性閉塞性肺疾患(COPD)の治療薬に対する生体応答機構の解明

宮田 将徳^{1,2}, 宮田(薄) 聖子^{1,2}, 沖米田 司¹, Jian-Dong Li² (¹関学大・理工・生命医化, ²ジョージア州立大・生物医学研究所)

3W9-p-2

[14:23]

ドラッグリポジショニング(DR)によるCOPD治療薬の開発

田中 健一郎(慶應大・薬・創薬科学)

3W9-p-3

[14:44]

閉塞性肺疾患モデルマウスを用いた肺病態増悪因子の同定とその治療的応用

首藤 剛¹, 亀井 竣輔^{1,2}, 坂口 由起¹, 松本 千鶴¹, 小野 智美¹, 菅原 卓哉¹, 野原 寛文^{1,2}, 藤川 春花^{1,2}, 丸田 かすみ¹, 中嶋 竜之介¹, スイコ メリーアン¹, 近藤 嘉高³, 石神 昭人³, 甲斐 広文^{1,2} (¹熊大・院薬・遺伝子機能応用学, ²熊大・リーディング校・HIGO, ³東京都健康長寿医療セ・老化制御)

3W9-p-4 [15:05]

タンパク質品質管理機構を標的とした囊胞性線維症の新規治療戦略

沖米田 司 (関学大・理工・生命医化)

3W9-p-5 [15:26]

アルブミン融合技術を利用した血中滞留型チオレドキシンの創製と難治性肺疾患治療への応用

渡邊 博志^{1,2}, 田中 遼大¹, 異島 優^{1,2}, Victor Chuang³, 小田切 優樹^{4,5}, 丸山 徹^{1,2} (¹熊大・薬・薬剤学, ²熊大・薬・育薬フロンティアセ, ³Fac. of Health Sci., Sch. of Pharm., Curtin Univ., Australia, ⁴崇城大・薬, ⁵崇城大・DDS研)

3W9-p-6 [15:47]

重症肺高血圧モデルラットを用いたヒストン脱アセチル化酵素阻害薬の肺高血圧に対する治療効果の検討

中西 敏雄, Beidi Lan, 羽山 恵美子 (東京女子医科大学循環器小児科)

3W9-p-7 [16:08]

フェブキソスタットはタバコによる好中球性肺炎症を抑制する

野村 城司, 松井 智恵子, 田村 みずほ, 小林 恒文 (帝人ファーマ・医薬開発研究所)

Conclusion [16:29]

沖米田 司 (関西学院大学)

3W10-p 第10会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F トバース) 14:00-16:30 [J]

分泌過程の修飾メカニズムとそのダイナミズム

オーガナイザー：石川 裕之 (千葉大学)

後藤 聡 (立教大学)

Introduction [14:00]

後藤 聡 (立教大学)

3W10-p-1 [14:01]

Notch 情報伝達機構における O-グルコース糖鎖修飾の重要性に関する研究

竹内 英之 (ジョージア大学)

3W10-p-2 [14:30]

蛋白間相互作用における糖鎖の新たな機能

鍋島 陽一 (先端医療振興財団)

3W10-p-3 [14:54]

ゴルジ体キナーゼFour-jointedの発現・局在パターン形成機構

松本 仙太郎, 白石 穂高, 計良 陽子, 石川 裕之 (千葉大・理・生物)

3W10-p-4 [15:17]

ゴルジ体ストレス応答による糖鎖修飾酵素の発現調節

吉田 秀郎 (兵庫県大・院生命理学・ピコバイオロジー)

3W10-p-5 [15:41]

新規GPIアンカー切断酵素とGPIアンカー側鎖付加酵素の特徴と機能

木下 タロウ (阪大・免フロ・糖鎖免疫)

3W10-p-6 [16:05]

GPI修飾が行われる細胞内コンパートメント

後藤 聡, 山本 日野 美紀 (立教大学・理・生命理学)

Conclusion [16:28]

石川 裕之 (千葉大学)

3W11-p 第11会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F エメラルド)

14:00-16:30 [E]

Nuclear non-coding RNA architecture for physiological functions

Organizers : Kuniaki Saito (Keio University)
Tetsuro Hirose (Hokkaido University)

Introduction

[14:00]

Kuniaki Saito (Keio University)

3W11-p-1

[14:03]

Regulation of mRNAs and long noncoding RNAs that lack a poly(A) tail

Deirdre C. Tatomer¹, Sara Cherry², **Jeremy E. Wilusz¹** (¹Department of Biochemistry and Biophysics, University of Pennsylvania Perelman School of Medicine, Philadelphia, PA, USA, ²Department of Microbiology, University of Pennsylvania Perelman School of Medicine, Philadelphia, PA, USA)

3W11-p-2

[14:33]

CRISPR/Cas9-mediated dissection of NEAT1 lncRNA to identify architectural RNA elements

Tomohiro Yamazaki, Tetsuro Hirose (Institute for Genetic Medicine, Hokkaido Univ.)

3W11-p-3

[14:50]

The imprinted ncRNA, UBE3A-ATS regulates the chromatin architecture of MAGEL2 and NDN locus over long distance.

Shin-ichi Horike¹, Dag H. Yasui², James L. Resnick³, Janine M. Lasalle², Makiko Horike-Meguro¹ (¹Advanced Science Research Center, Kanazawa University, Japan, ²Dep. of Medical Microbiology and Immunology, UC Davis, USA, ³Dep. of Molecular Genetics & Microbiology, University of Florida, USA)

3W11-p-4

[15:07]

Long noncoding RNA and the brain: Functions of Lobe-less RNA in Drosophila mushroom body development

Yuyu Kageyama^{1,2}, Sachi Inagaki¹ (¹Res. Ctr. Env. Genomics, Kobe Univ., ²Dept. Biol., Grad. Sch. Sci., Kobe Univ.)

3W11-p-5

[15:24]

CTD-code of RNA polymerase II regulates dynamics of lncRNA for RNAi-dependent heterochromatin formation

Takuya Kajitani¹, Hiroaki Kato², Yutaka Suzuki³, Yuji Chikashige⁴, Hiroshi Kimura⁵, Yasuyuki Ohkawa⁶, Chikashi Obuse⁷, Koji Nagao⁷, Damien Hermand⁸, **Yota Murakami¹** (¹Dept. of Chem., Sci., Hokkaido Univ., ²Dept. of Biochem. Grad. Sch. of Med. Simone Univ., ³Grad. Sch. of Front. Sci., Univ. of Tokyo, ⁴Adv. ICT Res. Inst., NICT, ⁵Dept. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Biosci. and Biotech., Tokyo Inst. of Tech., ⁶Dept. of Adv. Init. Med., Med., Kyushu Univ., ⁷Adv. Life Sci., Hokkaido Univ., ⁸NARC, Univ. of Namur)

3W11-p-6

[15:41]

Small RNA mediated transposon silencing in the Drosophila germ line and beyond

Katalin Fejes Tóth¹, Adrien Le Thomas¹, Georgi Marinov², Alexandre Webster¹, Alicia Rogers¹, Can Li¹, Alexei Aravin¹ (¹California Institute of Technology, ²Indiana University)

3W11-p-7

[16:11]

Piwi-piRNA complex regulates linker histone H1 for transcriptional silencing of their target transposons in the nucleus

Yuka W. Iwasaki¹, Hirotsugu Ishizu², Aoi Shibuya¹, Yumiko Iyoda¹, Mikiko C. Siomi², Haruhiko Siomi¹, Kuniaki Saito¹ (¹Department of Molecular Biology, Keio University School of Medicine, ²Department of Biological Sciences, Graduate School of Science, The University of Tokyo)

Conclusion

[16:28]

Tetsuro Hirose (Hokkaido University)

3W12-p 第12会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F ダイヤモンド)

14:00-16:30 [J]

Nutri-developmental biolog : 栄養に応じた発生調節の分子メカニズムの理解に向けて

オーガナイザー: 丹羽 隆介 (筑波大学)
上村 匡 (京都大学)

Introduction

[14:00]

丹羽 隆介 (筑波大学)

3W12-p-1

[14:03]

栄養バランス変化に適応する生体システムの解明に向けて

服部 佑佳子¹, 渡辺 佳織¹, 古溝 優生¹, 内山 博允², 高橋 優喜¹, 矢嶋 俊介², 和多田 正義³, 上村 匡¹ (¹京大・院生命科学, ²農大・生物資源ゲノム解析センター, ³愛媛大・院理工)

3W12-p-2

[14:28]

線虫の発生とアセチル化制御

波田 一誠¹, 廣田 恵子², 稲野辺 愛³, 加香 孝一郎⁴, 深水 昭吉¹ (¹筑波大・TARAセンター, ²筑波大・グローバル教育院, ³筑波大・院・生命環境科学, ⁴筑波大・院・生命環境系)

3W12-p-3

[14:48]

母から子へと伝えられる栄養の力: ショウジョウバエのステロール動態研究から

丹羽 隆介^{1,2} (¹筑波大・生命環境, ²JST・さきがけ)

3W12-p-4

[15:08]

Hajime-no IPPO: Fat vs. Body Size for nutri-developmental biology

森 明弘, Albertha Walhout (UMASS・システム生物学)

3W12-p-5

[15:33]

線虫における神経前駆細胞の栄養応答を司る組織間ネットワーク

福山 征光 (東大・院薬・生理化学)

3W12-p-6

[15:58]

高糖質食による糖代謝異常が腫瘍増殖を促進する分子機序の解析

平林 享 (MRC クリニカル・サイエンス・センター, インペリアル・カレッジ・ロンドン)

Conclusion

[16:28]

上村 匡 (京都大学)

3W13-p 第13会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F ルビー)

14:00-16:30 [J]

最先端の光イメージング技術と医学・生物学への新たな展開

オーガナイザー: 大嶋 佑介 (愛媛大学)
片桐 崇史 (東北大学)

3W13-p-1

[14:00]

超高速光イメージング技術の最新動向

三上 秀治¹, 合田 圭介^{1,2,3} (¹東大・院理・化学, ²カリフォルニア大ロサンゼルス校・工・電気工学, ³JST)

3W13-p-2

[14:30]

深部超解像イメージングのための多光子蛍光顕微鏡

磯部 圭佑^{1,2}, 緑川 克美¹ (¹理化学研究所, ²JSTさきがけ)

3W13-p-3

[15:00]

ラマン分光・イメージング技術の開発と生体計測への応用

大嶋 佑介 (愛媛大学大学院医学系研究科)

3W13-p-4

[15:30]

生体内におけるエネルギー動態

山本 正道 (京都大学)

3W13-p-5

[16:00]

Fluorescence-guided detection of tumors by aminopeptidase-activatable fluorescent probes

神谷 真子^{1,2}, 浦野 泰照^{1,3,4} (¹東大・院医, ²JST・さきがけ, ³東大・院薬, ⁴AMED・CREST)

3W14-p 第14会場(神戸国際会議場 1F メインホール)

14:00-16:30 [J]

がんとワールブルグ効果

オーガナイザー：曾我 朋義(慶應義塾大学)

江角 浩安(東京理科大学)

Introduction

[14:00]

江角 浩安(東京理科大学)

3W14-p-1

[14:05]

がんと解糖

杉村 隆(日本学士院)

3W14-p-2

[14:30]

大規模定量プロテオミクスで挑むがん代謝の実体解明

松本 雅記¹, 中山 敬一² (¹九大・生医研・プロテオミクス, ²九大・生医研・分子医科学)

3W14-p-3

[15:00]

EGFRシグナル伝達経路とワールブルグ効果

牧野嶋 秀樹¹, 江角 浩安², 土原 一哉¹ (¹国がセ・先端医療セ・TR, ²東理大・生医研)

3W14-p-4

[15:30]

EDAC(Epithelial Defense Against Cancer)は、がん細胞のワールブルグ効果様代謝変化を誘因し、組織より排除する

昆 俊亮, 石橋 公二郎, 渡邊 裕貴, 松本 朋大, 江上 陸, 藤田 恭之(北大・遺制研・分子腫瘍)

3W14-p-5

[16:00]

何が大腸がんの代謝リプログラミングを引き起こすのか？

曾我 朋義^{1,2} (¹慶大・先端生命研, ²CREST-AMED)

3W16-p 第16会場(神戸国際会議場 3F レセプションホール)

14:00-16:30 [J/E]

糖鎖を利用した、異物と宿主の生存戦略

オーガナイザー：山本(日野) 美紀(立教大学)

白土 明子(金沢大学)

Introduction

[14:00]

山本(日野) 美紀(立教大学)

3W16-p-1

[14:04]

宿主の糖鎖修飾変化による自然免疫反応の制御

山本・日野 美紀¹, 村岡 正敏², 近藤 周³, 上田 龍³, 岡野 栄之⁴, 後藤 聡¹ (¹立教大・理, ²東京都医学総合研, ³国立遺伝研・無脊椎, ⁴慶応大・医)

3W16-p-2

[14:30]

自然リンパ球による腸管上皮細胞のフコース誘導を介した感染防御基盤の形成

後藤 義幸^{1,2}, 清野 宏^{2,3} (¹千葉大・真菌医学研究センター・感染免疫, ²東大・医科研・国際粘膜ワクチンセンター, ³東大・医科研・炎症免疫)

3W16-p-3

[14:56]

Apoptosis-dependent phagocytosis of virus-infected cells in Drosophila: an evolutionarily conserved antiviral mechanism

Firzan Nainu^{1,3}, Yumiko Tanaka², Akiko Shiratsuchi¹, Yoshinobu Nakanishi¹ (¹Grad. of Med. Sci., Kanazawa Univ., ²Sch. Pharm., Kanazawa Univ., ³Fac. Pharm., Hasanuddin Univ.)

**3W16-p-4 [15:10]****細胞表面糖鎖の修飾変化を利用した腫瘍免疫逃避機構**

坪井 滋 (公財) 鷹揚郷腎研究所 癌免疫細胞生物)

3W16-p-5 [15:36]**ウイルス感染における糖鎖の機能解明と糖鎖の利用技術の開発**

高橋 忠伸 (静岡県立大・薬・生化学)

3W16-p-6 [16:02]**原虫感染における糖鎖の役割と抗原虫薬としての可能性**

加藤 健太郎 (帯広畜産大・原虫研)

総合討論 [16:28]**3W19-p 第19会場(神戸国際会議場 5F 501会議室) 14:00-16:30 [J]****生命システム原材料の起源と進化：遺伝子編成の基本原理は何か？ -オペロン説を超えて-**

オーガナイザー：三瓶 巖一 (電気通信大学)

根本 直樹 (千葉工業大学)

Introduction [14:00]

三瓶 巖一 (電気通信大学)

3W19-p-1 [14:02]**原核生物の遺伝子編成に基本原理はあるか？**別所 義隆^{1,2} (理研・SPRING-8センター,²中央研究院・物理研究所)**3W19-p-2 [14:19]****KEGG分子ネットワークによる生命システム再構築**

金久 實 (京大・化研)

3W19-p-3 [14:36]**オペロンと保存反応列から見る、遺伝子編成と代謝ネットワークの進化**武藤 愛¹, 小寺 正明², 五斗 進³, 金久 實⁴ (¹奈良先端大・バイオサイエンス, ²東工大・生命理工, ³京大・化研・バイオインフォマティクスセンター)**3W19-p-4 [14:53]****イソプレノイド生合成経路の収斂進化**

葛山 智久 (東大・生物工学セ)

3W19-p-5 [15:10]**原核光合成生物のゲノム中にみられる光合成関連遺伝子の存在様式と光合成の進化過程**

井上 和仁 (神奈川大・理・生物科学)

3W19-p-6 [15:27]**大腸菌のポリアミン代謝に関わる遺伝子の編成と進化**

根本 直樹 (千工大学・工・生命環境)

3W19-p-7 [15:44]**プリンヌクレオチド生合成系遺伝子群の編成**河合 剛太¹, 三瓶 巖一² (¹千葉工大・工, ²電通大・院情報理工)**3W19-p-8 [16:01]****Gene clusterの多様性からみたトリプトファン生合成システムの編成**

溝渕 潔 (電気通信大学)

総合討論 [16:18]

3W20-p 第20会場(神戸国際会議場 5F 502会議室)

14:00-16:30 [J/E]

「生殖」から読み解く哺乳類の生命現象

オーガナイザー：深見 真紀(国立成育医療研究センター研究所)

宮戸 健二(国立成育医療研究センター研究所)

Introduction

[14:00]

宮戸 健二(国立成育医療研究センター研究所)

3W20-p-1

[14:03]

精漿タンパク質SVS2欠損マウスから見えてきた、精子を殺すメスの免疫機構

河野 菜摘子^{1,2}, 康 宇鎮¹, 吉田 薫³, 吉田 学⁴, 宮戸 健二² (¹明大・農・生命, ²国立成育医療研究セ・細胞医療, ³桐蔭横浜大・先端医用工学センター, ⁴東大・院理・臨海)

3W20-p-2

[14:24]

哺乳類の排卵を制御する脳内メカニズム

井上 直子(名大・院生命農)

3W20-p-3

[14:45]

細胞の初期化過程でのシグナル伝達経路の役割

関田 洋一, 木村 透(北里大・理・生物科学)

3W20-p-4

[15:06]

卵の加齢メカニズム

浜谷 敏生(慶應義塾大学医学部・産婦人科(生殖医療))

3W20-p-5

[15:27]

ヒト卵母細胞におけるコヒーシンの加齢に伴う減少

堤 真紀子, 倉橋 浩樹(藤田保健衛生大学・総合医科学研究所・分子遺伝学研究部門)

3W20-p-6

[15:48]

Molecular basis for the activation of gonadotropin-inhibitory hormone gene transcription by corticosterone

You lee Son, Kazuyoshi Tsutsui (Lab. of Integrative Brain Sci., Dept. of Biol., Waseda Univ.)

3W20-p-7

[16:09]

生殖補助医療と高齢出産が片親性ダイソミー発症に及ぼす影響について考える

松原 圭子(成育医療研究センター 分子内分泌研究部)

3W22-p 第22会場(神戸国際展示場 2F 2A会議室)

14:00-16:30 [E]

Quantitative biology toward trans-omic analysis

Organizers : Keiichi Nakayama (Kyushu University)

Sinya Kuroda (The University of Tokyo)

3W22-p-1

[14:00]

Reconstruction of global network of acute insulin action from phospho-proteome and metabolome data

Shinya Kuroda, Katsuyuki Yugi (Dept. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Univ. of Tokyo)

3W22-p-2

[14:25]

Integrated 'Omics' analyses in a model plant, *Arabidopsis thaliana*

Keiko Yonekura-Sakakibara¹, Kazuki Saito^{1,2} (¹RIKEN CSRS, ²Grad. Sch. of Pharm. Sci., Chiba Univ.)

3W22-p-3

[14:50]

Development of supercritical fluid technologies for acquisition of highly accurate metabolome data

Takeshi Bamba (Med. Inst. of Bioreg., Kyushu Univ.)

3W22-p-4

[15:15]

Structural approach for sensitivity of chemical reaction networks

Atsushi Mochizuki^{1,2}, Bernold Fiedler³, Takashi Okada¹ (¹Theor. Biol. Lab., RIKEN, ²CREST, JST, ³Inst. Math., Freie Univ. Berlin)



3W22-p-5 [15:40]

Next-generation proteomics unveils a global landscape of life systems

Keiichi Nakayama (Dept. Mol. Cell. Biol., Kyushu Univ.)

3W22-p-6 [16:05]

Identifying the (few) Mechanisms that Coordinate Microbial Metabolism

Uwe Sauer (ETH Zurich)

3W24-p 第24会場(神戸国際展示場 3F 3A会議室) 14:00-16:30 [J]

細胞運命変換

オーガナイザー：菊池 裕 (広島大学)
鈴木 淳史 (九州大学)

Introduction [14:00]

鈴木 淳史 (九州大学)

3W24-p-1 [14:02]

生体内に存在する多能性幹細胞Muse細胞の体内動態と組織修復機構

出澤 真理 (東北大学大学院 医学系研究科)

3W24-p-2 [14:23]

iPS細胞を用いた立体的臓組織作製の展望

川口 義弥 (京都大学 iPS細胞研究所)

3W24-p-3 [14:44]

脊椎動物の中内胚葉分離における時空間的制御機構の解析

穂積 俊矢, 青木 駿, 菊池 裕 (広大・院理・生物学)

3W24-p-4 [15:05]

多分化能を有する細胞を誘導するシグナルインプット ～メキシコサラマンダーの器官再生誘導因子～

佐藤 伸, 蒔苗 亜紀, 水戸川 和正 (岡山大学 異分野融合先端研究コア)

3W24-p-5 [15:26]

心臓再生環境と心筋分化能力

竹内 純 (東大・分生研・心臓再生)

3W24-p-6 [15:47]

心筋直接リプログラミング制御因子の同定と応用

家田 真樹 (慶大・医)

3W24-p-7 [16:08]

肝臓の疾患における細胞運命転換のメカニズム

鈴木 淳史^{1,2} (¹九大・生医研・器官発生再生学, ²科学技術振興機構・CREST)

Conclusion [16:29]

菊池 裕 (広島大学)

3W26-p 第26会場(神戸商工会議所 3F 神商ホールA) 14:00-16:30 [J]

転写後制御を標的とした次世代創薬プラットフォーム

オーガナイザー：山下 暁朗 (横浜市立大学)
藤原 俊伸 (近畿大学)

Introduction [14:00]

藤原 俊伸 (近畿大学)

3W26-p-1 [14:04]

*in vitro*翻訳系を用いた新規創薬ターゲット同定法

藤原 俊伸 (近大・院薬・生化学)

3W26-p-2	[14:24]
動物培養細胞を用いた高感度転写後制御モニタリングシステムの構築	
山下 暁朗, 安田 篤史, 青柳 杏子, 中村 良恵, 廣瀬 博子, 黒澤 瞳, 大野 茂男 (横浜市大・医・分子細胞)	
3W26-p-3	[14:45]
TTN遺伝子の選択的スプライシングモニタリングと拡張型心筋症の創薬スクリーニング	
山崎 裕美子, 村山 里枝, 大野 麻理奈, 黒柳 秀人 (医科歯科大・難研)	
3W26-p-4	[15:06]
mRNAの翻訳・安定性制御をゼブラフィッシュ胚で可視化する	
三嶋 雄一郎 (東大・分生研)	
3W26-p-5	[15:27]
細胞内RNAを可視化する化学プローブ	
岡本 晃充 (東大・先端研)	
3W26-p-6	[15:48]
高分子ナノテクノロジーによる核酸医薬デリバリー	
宮田 完二郎 ¹ , 片岡 一則 ^{1,2} (¹ 東京大学大学院医学系研究科, ² 東京大学大学院工学系研究科)	
3W26-p-7	[16:09]
RNAを用いた新奇害虫防除法の開発	
佐藤 豊 ¹ , 吉岡 博文 ¹ , 新美 輝幸 ² (¹ 名古屋大・院生命農, ² 基生研)	
Conclusion	[16:30]
山下 暁朗 (横浜市立大学)	
3W27-p 第27会場(神戸商工会議所 3F 神商ホールB)	14:00-16:30 [E]
Analysis of local chromatin structure by state-of-the-art technologies and its comprehensive interpretation	
Organizers : Youichiro Wada (The University of Tokyo) Hodaka Fujii (Osaka University)	
3W27-p-1	[14:00]
Retinoic acid-regulated chromatin insulator modulates higher-order chromatin structure and gene expression in the <i>HOXA</i> Locus	
Ko Ishihara ¹ , Masafumi Nakamoto ² , Mitsuyoshi Nakao ² (¹ POIE, Kumamoto Univ., ² Dept. of Med. Cell Biol., IMEG, Kumamoto Univ.)	
3W27-p-2	[14:14]
Analysis of effects of local chromatin structure on enhancer function	
Yutaka Satou (Grad. Sch. of Sci., Kyoto Univ.)	
3W27-p-3	[14:28]
Transcription factories: genome organization and gene regulation	
Peter R. Cook (Dunn School, Univ. of Oxford)	
3W27-p-4	[14:52]
Dynamic chromatin movement in stimulated endothelial cells suggested by interactome analysis	
Youichiro Wada (Isotope Science Center, Univ. of Tokyo)	
3W27-p-5	[15:06]
Control of thymocyte fate decision by local chromatin structure	
Woosuk Seo, Ichiro Taniuchi (Lab. of Transc. Reg., IMS, Riken Yokohama)	
3W27-p-6	[15:20]
Genome-wide analysis of human transcriptional target genes reveals significant functional enrichments and its application to the prediction of transcriptional cascades	
Naoki Osato ^{1,2} (¹ LSBM, RCAST, Univ. of Tokyo, ² IBMath, Univ. of Tokyo)	

3W27-p-7

[15:34]

Path-preference cellular-automaton model of the cooperative dynamics of RNA polymerase II during the transcription process in human cells

Yoshihiro Ohta (Grad. Sch. of Math. Sci., Univ. of Tokyo)

3W27-p-8

[15:48]

Locus-specific biochemical analysis of genome functions using the locus-specific chromatin immunoprecipitation technologies iChIP/enChIP

Toshitsugu Fujita, Hodaka Fujii (Combined Program on Microbiol. and Immunol., RIMD, Osaka Univ.)

3W27-p-9

[16:02]

Simultaneous live imaging of a specific gene's transcription, dynamics

Hiroshi Ochiai¹, Takeshi Sugawara¹, Takashi Yamamoto^{1,2} (¹RcMcD, Hiroshima Univ., ²Dept. of Math. and Life Sci., Grad. Sch. of Sci., Hiroshima Univ.)

3W27-p-10

[16:16]

A method to dissect protein composition on regulatory DNA sequence and the future

Satoru Ide^{1,2}, Jerome Dejardin³, Kazuhiro Maeshima^{1,2} (¹Struct. Biol. Center, Natl. Inst. of Genet., ²School of Life Sci., Grad. Univ. for Advanced Studies (Sokendai), ³Inst. of Hum. Genet., CNRS, France)